

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 東濃高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月18日(水) 9:20～11:20
- 3 開催場所 東濃高等学校図書館・ガイダンス室
- 4 参加者

会 長	寺本 公行	御嵩町副町長
副 会 長	井口 和広	PTA会長
委 員	各務 眞弓	可児市国際交流協会・フレビア事務局長
	田中 妙子	会社経営・税理士
	山田 泰平	東海化学工業(株) 業務部人事・総括課長
	渡邊 剛	地域代表(欠席)
	北野 雅也	PTA副会長
	吉田 有希	PTA副会長
	瀨瀬 江美	PTA書記
	稲垣 眞智子	PTA会計
学 校 側		
	吉田 益穂	校長
	田中 誠二	教頭
	大坪 篤	事務長
	大宮 学	進路指導主事
	前田 知美	生徒指導主事
- 5 会議の概要(報告・協議事項)
 - (1) 会議日程の説明 於：図書館
 - ・地域づくり類型及び本校のふるさと教育についての説明と会議日程の説明を教頭が行った。
 - (2) 地域づくり類型「学習報告会」の参観 於：ガイダンス室
 - ・3年地域づくり類型の「学習報告会」を参観した。「学習報告会」には、御嵩町役場、県教育委員会、県高教研美濃・可茂地区公民地歴部会にも参観いただいた。
 - ・「御嵩町の活性化～町をよりよくするためには～」をテーマに、生徒が地域とつながる探究的な学びの成果をプレゼンテーションで発表した。
 - (3) 令和4年度自己評価・学校関係者評価について(協議) 於：図書館
 - ・令和4年度自己評価について教頭、進路指導主事、生徒指導主事から評価項目ごとに説明した。
 - ・委員からの意見と質問
 - 意見1：学校側が基本的生活習慣や規範意識の定着を課題とする一方、生徒はその点の自己評価が高い。相反していないか。

⇒ 多くの生徒は向上したことを自覚しているが、学校としては社会に通用する力としてより高いレベルを求めている。また、すべての生徒が十分に定着できている訳ではないと考えている。

意見2：外国につながる生徒に対して授業を英語で行うとまでは言わないが、授業をより理解し易いものにすれば、学力も高まり、進路につながるのではないかと。

⇒ 言葉を短く切ったり、板書の漢字に振り仮名を付けたりするなどわかる授業を心掛けている。また、入学前に日本語と母語の言語能力評価を行い、必要な生徒が日本語の授業を選択できるようにしている。

意見3：外国につながる生徒の多くは自分の意思で来日している訳ではなく、様々な事情の中で、文化的背景の違う国で思春期を迎えている。それだけに、ユニバーサルデザインの授業を学校で進めるなど寄り添っていることは素晴らしい。ただし、学力評価が日本語能力の評価とならないよう、評価の工夫も進めてほしい。

意見4：多様な背景をもつ生徒が多いだけに、出口を見据えて多様な進路選択に係る情報を生徒や保護者に提供できるとよい。

⇒ キャリア形成に係る進路行事について、3年間を見通して配置し直すなど、より効果的になるよう改善したい。今年度、国公立大学説明会を開催するなど、可能性を広げる新たな取り組みも始めた。

意見5：価値観や家庭環境の多様性を考えて、進学のみでなく働くことも含めて1年次から早め早めの指導を求めたい。幅広く進路を知ること、進路に対する考えや家庭の状況がどのように変化しても、生徒は前向きな気持ちで進めるのではないかと。

意見6：英語スピーチコンテストやプレゼンテーションコンテスト等の良好な実績を、進学や就職に活かしてもらいたい。

6 会議のまとめ

今回の学校運営協議会では、令和4年度の学校評価に関して委員から意見や質問を出していただいた。特に外国につながる生徒が半数を超える学校の状況に関して、多くの意見が交わされる中で、多様な背景をもつ生徒が遍くわかる授業（ユニバーサルデザインの授業）の実践は、高く評価された。一方、外国につながる生徒を含めたキャリア形成には改善の余地があるとの指摘をいただいた。生徒が主体性をもって人生を歩むことができるよう、より早期の進路情報提供、キャリア形成を促す指導が求められた。

協議を踏まえ、今年度の学校評価（自己評価）に対する了承が得られた。